

島本町橋梁長寿命化修繕計画の概要

背景・目的

本町が管理している橋は、平成24年4月現在で道路橋や歩道橋などを合わせて107橋です。このうち本計画の対象橋梁は24橋とします。



東大寺跨道橋



桜井跨線橋

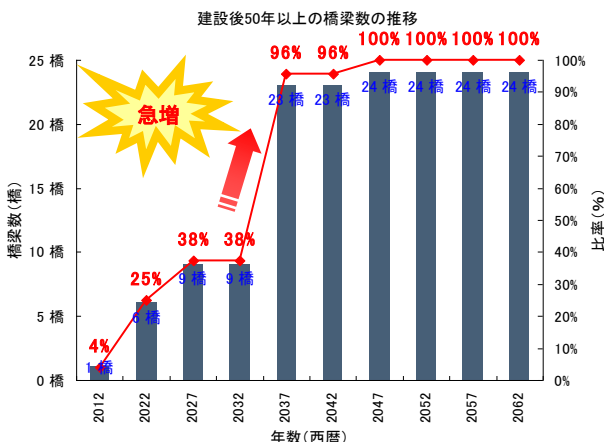


山ノ瀬橋

現在、高度経済成長期に架けられた橋が急速に老朽化しており、補修する費用の増加や時期が集中することが懸念されています。本町は対象橋梁のうち半数以上の橋が既に架けられて20年以上を経過しており、25年後には92%が架けられて50年を迎える高齢化橋梁となってしまいます。

高齢化橋梁の増加により、安全・安心な町民生活を支える道路ネットワークが悪化するだけでなく、多大な維持補修費用が必要となってしまいます。

そこで、町が管理している橋梁に対する維持管理手法をこれまでの「悪くなってから対策を行う」といった管理手法から、「傷みが大きくなる前から計画的に対策を行う」といった予防的な管理手法に移行し、安全・安心な道路ネットワークを維持するとともに、維持管理にかかる費用の縮減を図るものとしています。



計画の対象とした橋

次のような条件を満たす橋を長寿命化修繕計画の対象としました。

- ・緊急輸送路に位置する橋
- ・桁下に道路や線路がある橋
- ・バス路線に位置する橋
- ・生活基盤を担う路線に位置する橋
- ・国道、主要地方道へのアクセス路線に位置する橋
- ・近くに重要な施設がある橋

橋の維持管理方針

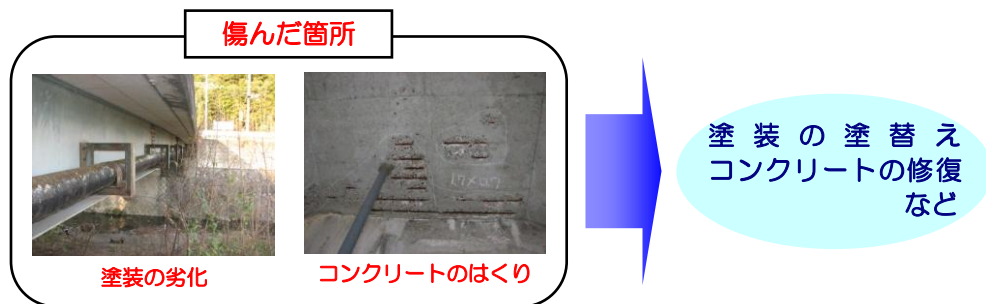
次のような方法で橋の維持管理を行います。

- ・5年に1度程度、定期点検の実施
- ・日常の道路施設パトロールにおける点検

これらの点検を通して、橋の傷みを早期に発見し、その傷みが大きくなる前に適切に対応します。

修繕計画の内容と効果

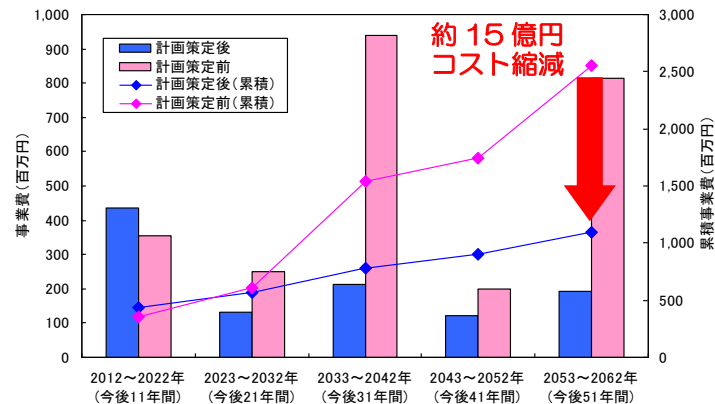
策定した計画に基づき平成24年度より傷んだ箇所の補修などを順次実施します。



本計画で計画的に橋の補修を行うことで、橋の寿命を100年に延ばすこともできると言われています。

そして、今回策定したことで橋を維持する費用の総額も26億円から11億円程度となり、コスト縮減効果は約15億円となります。今後、橋の管理を積極的に取り組み、経済的で安全・安心な道路ネットワークを維持するように努めます。

50年間に必要な修繕費用の比較



助言を頂いた学識経験者

本計画の策定には、**関西大学総合情報学部 古田均 教授**よりアドバイスをいただいております。